

# SUMIDA CORPORATION

## 2008年度第2四半期決算説明会

2008年8月7日

CEO 八幡 滋行

CFO 松田 三郎

差異発生 の理由		
	短期的対策	長期的対策
<p><b>売上高</b>                      マーケット全体の停滞                      特に北米</p> <p><b>営業利益</b></p> <p>1. 売上減の影響</p> <p>2. 人件費</p> <p>    ①最低賃金の上昇</p> <p>    ②残業時間の増加</p> <p>3. 材料費</p> <p>    銅の価格上昇                      ⇒ワイヤー価格UP</p> <p><b>経常利益</b></p> <p>為替差損</p> <p>    人民元上昇(対香港ドル)                      の影響(中国製造委託先                      への加工賃差額発生)</p>	<p><b>売上高</b>                      コンシューマー向けの落ち込みを                      非コンシューマー向けでカバーする体制構築</p> <p><b>営業利益</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・価格引き上げ交渉</li> <li>・低採算製品の排除                      ⇒利益確保(損益分岐点改善)</li> <li>・最低賃金の上昇                      ⇒最初のサテライト工場                      の稼動開始(8月末)</li> <li>・残業時間の増加                      ⇒残業20%削減(7月)</li> </ul> <p>材料費</p> <p>    セカンドソースの継続的開拓</p> <p><b>経常利益</b></p> <p>製造委託先との交渉に                      によるリスクシェア</p>	<p><b>高利益・非コンシューマー向                      け製品販売への注力</b></p> <p><b>第2,3サテライト工場展開</b></p> <p>生産性向上・部分自動化                      ⇒ 残業時間削減</p> <p><b>人民元での販売の増加</b></p>

## 第2四半期総括

売上高            計画比   約8億円 (5%) 減少  
 営業利益        計画比   約2億円    減少

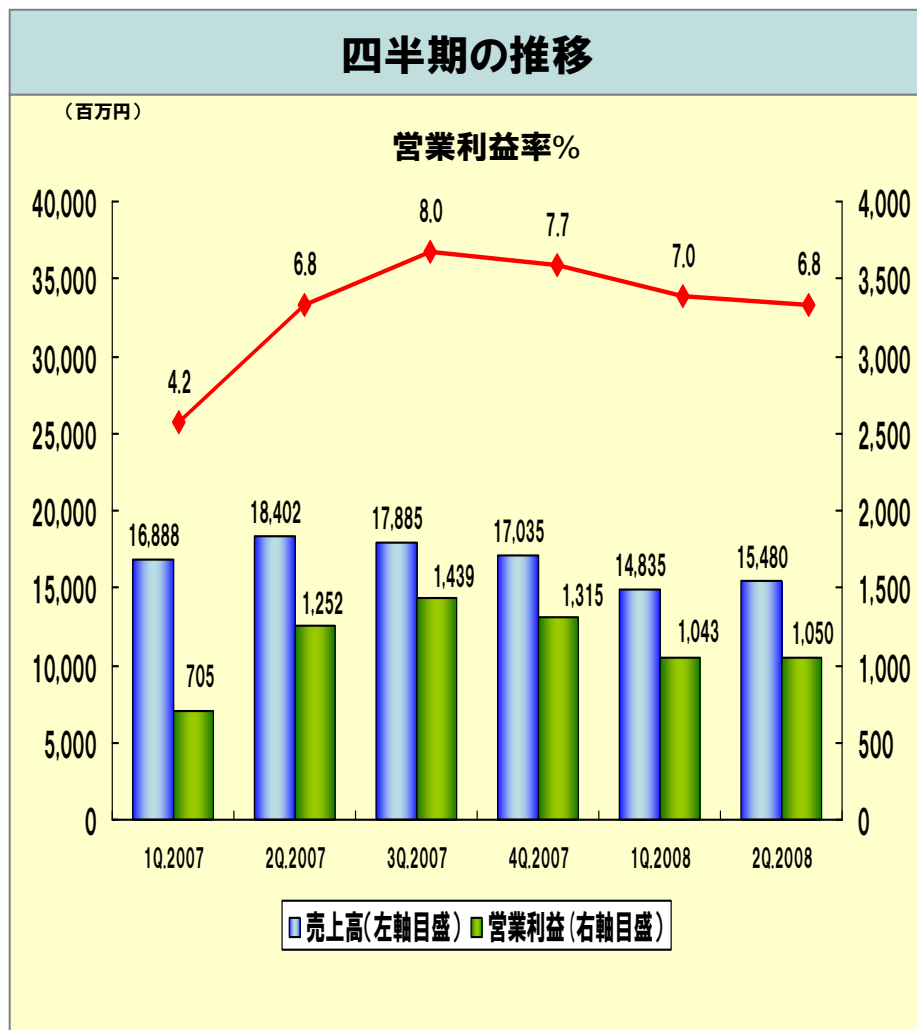
理由    :

- 1. 売上げ減による影響      2億円
  - 2. 原価UP要因
    - ①人件費                      2億7千万円
    - ②材料費                      8千万円
  - 3. 収益改善効果      △3億5千万円
- } 3億5千万円
- 2億円

\* 人件費と材料費の上昇の影響はほとんど吸収している

原価UPを吸収できた要因

- ①VOGT    :   前期のリストラ効果
- ②SECL    :   インバータ事業売却



# 1. 為替動向



	2007				2008				
	<u>1Q</u>	<u>2Q</u>	<u>3Q</u>	<u>4Q</u>	<u>1Q</u>	<u>4月</u>	<u>5月</u>	<u>6月</u>	<u>2Q</u>
¥/US\$	118.1	123.3	115.6	112.4	105.4	102.5	104.3	106.8	104.5
	上半期 120.70							上半期 104.95	
¥/€	157.2	165.8	163.7	165.6	157.7	161.6	162.4	166.0	163.3
	上半期 161.50							上半期 160.50	
¥/HK\$	15.1	15.8	14.9	14.4	13.5	13.2	13.4	13.7	13.4

## 2. 第2四半期連結経営成績



(単位：百万円)

	2008年2Q				2007年2Q		
	実績	予想	増減額	比較	実績	増減額	比較
売上高	15,479	16,300	△821	95.0%	18,402	△2,923	84.1%
営業利益	1,051	1,280	△229	82.1%	1,253	△202	83.9%
売上高営業利益率	6.8%	7.9%	/		6.8%	/	
経常利益	517	1,000	△483	51.7%	1,750	△1,233	29.5%
四半期純利益	△17	600	△617	—	679	△696	—

### 3. 2008年中間期連結經營成績



(單位:百萬元)

	08年中間		07年中間	達成率 対予想	前年同 期比較
	実績	予想	実績		
売上高	30,314	31,100	35,290	97.5%	85.9%
営業利益	2,093	2,320	1,958	90.2%	106.9%
売上高営業利益率	6.9%	7.5%	5.5%		
経常利益	1,327	1,810	2,313		
中間純利益	485	1,100	1,034	44.1%	46.9%

### 3-1. 中間期売上高分析



(単位:百万円)

	2007年 中間期	2008年 中間期	差額
インバータユニット	2,480	—	△2,480
VOGT コンポーネント —外注	947	—	△947
EMS—レトロン	693	—	△693
その他	31,170	30,314	△856
合計	35,290	30,314	△4,976

## 3-2. 為替分析



(単位:百万円)

通貨別 売上高	2007年 中間期	2008年 中間期	2007年中間期の 為替レートでの換算	
ユーロ	13,139	13,093	.....→	13,175 +0.3%
円	4,702	4,584	.....→	4,584 △2.5%
米ドル	13,329	12,637	.....→	14,533 +9.0%
合計	<u>31,170</u>	<u>30,314</u>	.....→	<u>32,292</u> +3.6%

## 4. 為替

### 2008年上半期の為替損

① 人民元の上昇	△200百万円
② 為替予約	△200百万円
③ VOGT(€ vs. US\$)	△100百万円
④ その他(未実現)	△127百万円
<hr/>	
	△627百万円

1Q 114.48 2Q 117.57 3Q 111.61 4Q 109.14

## 5. ビジネス (事業) 別営業利益分析



(単位：百万円、%)

	08年2Q	07年2Q	増減額
コイル	1,583	1,651	△65
営業利益率 (%)	15.8	13.7	—
VOGT コンポーネント	268	220	48
営業利益率 (%)	5.1	3.7	—
VOGT EMS	20	45	△25
営業利益率 (%)	4.6	6.7	—
消去又は全社	△820	△663	△157
合計	1,051	1,253	△202
営業利益率 (%)	6.8	6.8	—

## 6. 税金



(単位：百万円)

2001年-2003年	タックスハイブン	仮払税金	628
2004年-2006年	タックスハイブン		
	移転価格	(税効果等)	<u>△228</u>
	合計		<u>400</u>

移転価格

PS法

(全体の利益を人件費で按分)

## 7. 連結貸借対照表



(単位：百万円)

	2007年末	2008年2Q
短期借入金	16,196	14,982
社債（アルパイン）	8,000	7,830
長期借入金+社債	3,563	4,313
借入金合計	27,759	27,125
現預金	9,181	8,066
現金同等物		2,500
ネット借入金	18,579	16,659

# 8. Global Tax Strategy



## Global Tax Strategy

連結ベースの  
キャッシュフローの最大化

Tax Haven税制  
移転価格税制

スミダコーポレーションは  
純粹持株会社

連結ベースの実効税率の低減

## 子会社からの配当

現在は日本の中間持株会社  
が集約（コイル事業分）



実効税率が低い  
国に集約

## 9. 2008年第3四半期連結業績予想



	2008年 3Q予想 (百万円)	2007年 3Q実績 (百万円)	比較	
			金額 (百万円)	%
売上高	16,000	17,885	△1,855	89.5
営業利益	1,100	1,439	△339	76.4
売上高営業利益率	6.9%	8.0%		
経常利益	870	1,023	△153	85.0
四半期純利益	530	872	△342	60.1

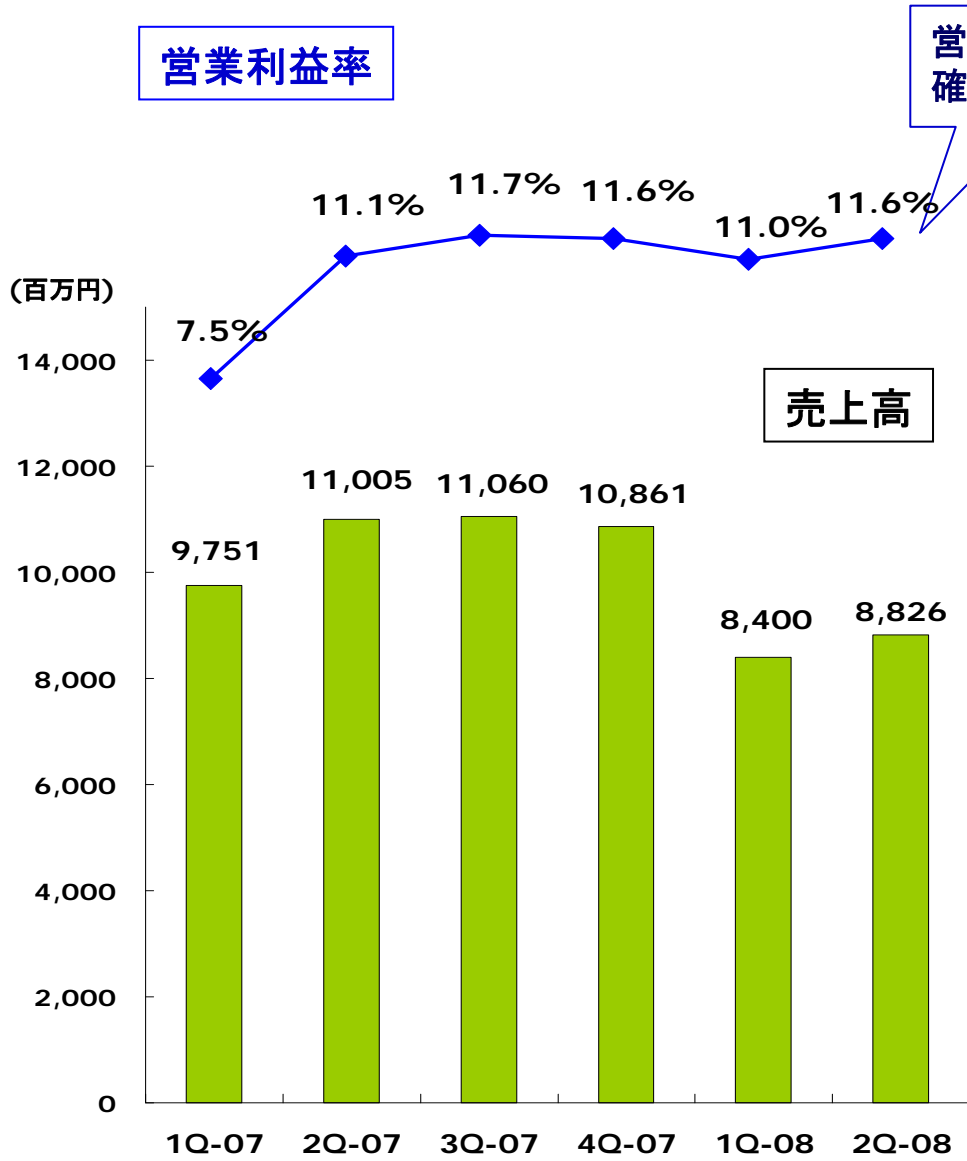
# 10. 2008年通期連結業績予想の修正



	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (2008年2月18日) (A)	65,300	5,230	4,830	3,380
今回修正予想 (2008年8月6日) (B)	62,000	4,200	3,000	2,200
増減額 (B) - (A)	△3,300	△1,030	△1,830	△1,180
増減率 (%)	△5.1	△19.7	△37.9	△34.9
(ご参考) 前期実績 (2007年12月期)	70,210	4,712	4,368	2,855

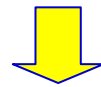
(金額の単位：百万円)

# SECL: 四半期売上高と営業利益率の推移



**08年第2四半期の成果と課題**

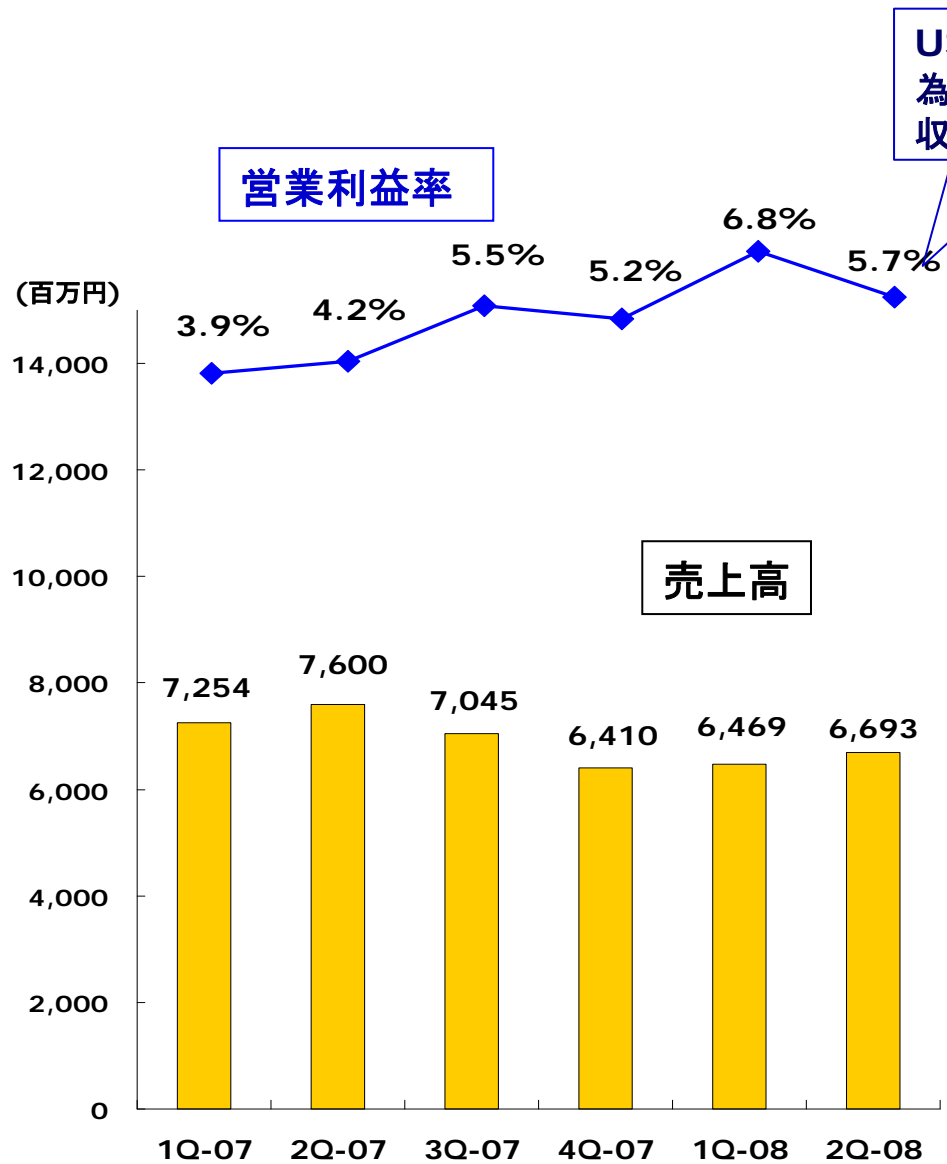
- オートモーティブ向け事業、欧州向けの売上は好調
- 人民元の上昇
- 中国の最低賃金の上昇
- 高い離職率による残業代の増加



**08年第3四半期の取組み**

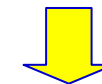
- 原価率の低減
- 顧客との価格引き上げ交渉
- 低利益製品の見直し
- 新製品の開発

# SVG: 四半期売上高と営業利益率の推移



**08年第2四半期の成果と課題**

- コンシューマーエレクトロニクス向けの売上の伸び悩みをオートモーティブ、産業向けの安定した業績が一部カバー
- 特に北米の売上で、為替変動による影響が大（去年比）
- 収益性改善、営業利益率5%以上維持



**08年第3四半期の取組み**

- 原価率低減のための施策に着手。  
例：東欧と中国への生産移管

為替レート: 1ユーロ = 163.34円

## 上半期の成果と課題

### 1. 欧州を中心にオートモーティブ向け売上が好調

当社部品の車載搭載数が増加

### 2. コンシューマーエレクトロニクス向け売上の不振

電子部品業界全体の市況の悪化

### 3. 材料費の上昇

世界的な原材料高騰の影響あるも  
代替購入先の確保で影響軽減

### 4. 人件費の上昇

最低賃金上昇の影響  
690円 → 770円(4月) → 800円(5月)  
(番禺地区)

## 第3四半期以降への取組みと展望

### 1. 下期もオートモーティブ向けは堅調

短期的には需要拡大ペースの鈍化の兆しあるも、新製品を大手メーカーに納入予定。既存製品の販路も拡大中で、中国メーカー向けも視野に

### 2. マーケティングの強化

下期も引き続き難しい市場環境だが、アミューズメント、産業機器向けマーケティングに注力

販売価格の引き上げ(顧客転嫁)により  
マージン維持

### 3. 代替購入先の安定確保を通じ、影響をより軽減化

中国における産業基盤拡大により  
中国内の調達先可能性は拡大

### 4. 人件費上昇分の吸収

残業時間の約20%削減(7月に実施)  
継続的な生産性向上、部分自動化の推進、シルクロード構想の着実な実行

## 上半期の成果と課題

5. 欧州オペレーションの着実な効率改善  
前年のリストラ効果により収益性改善

6. VOGT低利益製品の中国への製造シフト

移管品目はまだ限定的なるも製造原価  
は大幅に削減し、移管部門の利益体質  
実現に寄与

## 第3四半期以降への取組みと展望

5. 欧州オペレーションの一層の効率改善  
オートモーティブ向け新製品(モジュール)の  
採用

6. 中国への製造シフトの継続

シフト可能な製品を継続的に移管

- ・ 売上減による減益（四半期で約200百万円）の一方、昨年のSVGでのリストラ、不採算部門の売却効果により、人件費、材料費の上昇は吸収。
- ・ 通期予想は外部環境における各種変動要因を勘案し、慎重対応（下半期売上予想も上半期実績と同レベル）なるも、中長期的にはVOGTとの融合を確実に進め、安定した収益基盤を強化拡大、新中期経営計画を着実に実行し、さらにその動きを加速へ

# 新中期経営計画Triple Exの重点5項目の進捗状況



重点項目	内容	上半期の取り組み事項
		下半期の取り組み予定
<b>製造</b> <b>“シルクロード構想”</b>	◎アジアにおける低コスト量産体制の強化・拡充	◎最初のサテライト工場を広西壮族自治区南寧（ナンニン）市に設立
		◎南寧工場稼動開始 ⇒ 製造原価低減を目指す ◎第2、3サテライト工場の候補地調査を本格化
<b>顧客ニーズへの対応力の活用</b>	◎スミダの以下の二つの顧客対応力をグローバルに提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客ニーズ（性能 / リードタイム / 価格）への対応力</li> <li>・新しいアプリケーションに素早く適合できる開発力</li> </ul>	◎C.Lab（中国新研究開発センター）稼動本格化（設備・技術者の配置）
		◎日本人技術者によるC.Labへの生産技術ノウハウの移管の推進
<b>先駆的技術と革新的な研究開発促進への投資</b>	◎日独における市場・お客様に密着した研究開発活動と中国新研究開発センター（C-Lab）における応用開発・事業化の推進	◎重点テーマの絞込み
		◎重点テーマへの追加的R&D投資（30億円）により開発を加速化

# 新中期経営計画Triple Exの重点5項目の進捗状況



重点項目	内 容	上半期の取り組み事項
		下半期の取り組み予定
<b>グローバルな開発・ 生産・販売体制の 拡充</b>	◎M&Aによる水平及び垂直統合を継続的に実行しつつ、研究開発、購買、製造、マーケティング、販売のグローバルなネットワークを更に効果的に展開し、スミダの事業基盤を強化・拡充	◎VOGTのコイル受動部品の中国移管 (VCM) により原価大幅低減 ◎M&A案件の抽出
		◎VOGTのコイル受動部品の中国移管 (VCM) を継続 ◎M&A案件の詳細調査による絞込みと交渉の開始
<b>グローバル マネージメント体制 の発展・強化</b>	◎グローバルマネージメントシステムを一層整備、強化し、グループ内の多様な文化、経験から最大限のシナジーを具現。今後も更なる成長の中でM&A、アライアンスを通じて取込んでいく異文化企業との統合とシナジー実現を、より効率的に素早く実施すべく経営力を強化	◎ Sumida Academyを中心にグループ全体の人材開発に関する個別施策を策定
		◎VOGTとDomination agreementを締結しグループ内の一体感を名実ともに実現し、SECLとのシナジーを更に追求

**スミダグループのグローバルな一体化が着実に推進。  
サテライト工場の活用、革新的な研究開発加速を下半期の取り組みの柱に。**

# シルクロード構想の進捗





南寧工場の外観

## 南寧工場の概要

- 正式名称 : 胜美达电机(广西)有限公司  
資本金 : 2,000万香港ドル  
(独資)  
場所 : 中国広西壮族自治区南寧  
(ナンニン)市の  
「南寧ハイテク産業開発区」内  
同区内には日系電機メーカー  
も進出中(予定もあり)
- 稼動時期 : 8月末稼動開始  
規模 : 最大人員1,500人(予定)

南寧地区の最低賃金は580元  
(番禺地区は800元)

外資独資企業に対し税金の  
優遇措置等有り

原価低減

## コイル市場の成長と当社の対応

### 電気・電子関連産業の拡大とともに成長

- デジタル化、ユビキタス化、センサーニーズ拡大、省エネ化等による長期的持続的成長
- 燃料高により内燃機関から電動モーターへの動力変化が加速、成長に弾み

#### ③産業機器

新エネルギー関連  
市場規模2,000億円  
スミダグループシェア2.1%、  
42億円

#### ②オートモーティブ

市場規模5,000億円  
スミダグループシェア4.4%、  
220億円

#### ①コンシューマー

市場規模5,000億円  
スミダグループシェア7.7%、383億円

2008年時点での市場規模1兆2,000億円  
スミダグループのシェア5.4%、642億円

動力源の内燃機関から  
自然発電エネルギーへの変換  
油圧制御から電気制御

↓  
長期的には最も  
潜在性のある分野

ハイブリッド化・電動化加速  
車載電装化の一層の進展

デジタル化の一層の進展  
ユビキタス化(通信機能拡充)  
センサー機能の拡充  
軽薄短小化  
高密度実装における  
ノイズ対策

高信頼性・高電圧コイルの技術力が豊富で、産業機器・エネルギー・オートモーティブ部門に強いVOGTを中心とするSVG

+

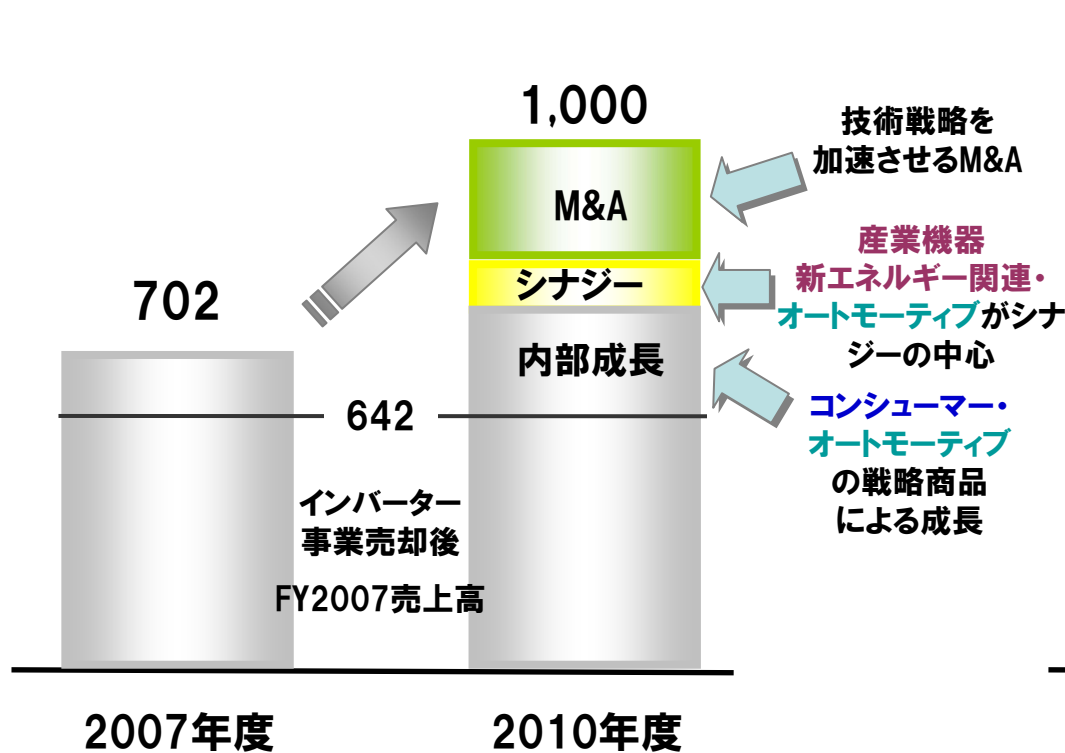
コンシューマー系に強く、また、ABSコイル等におけるオートモーティブ部品での実績があり、アジアでの機動的な生産力、顧客への対応力を持つSECL

=

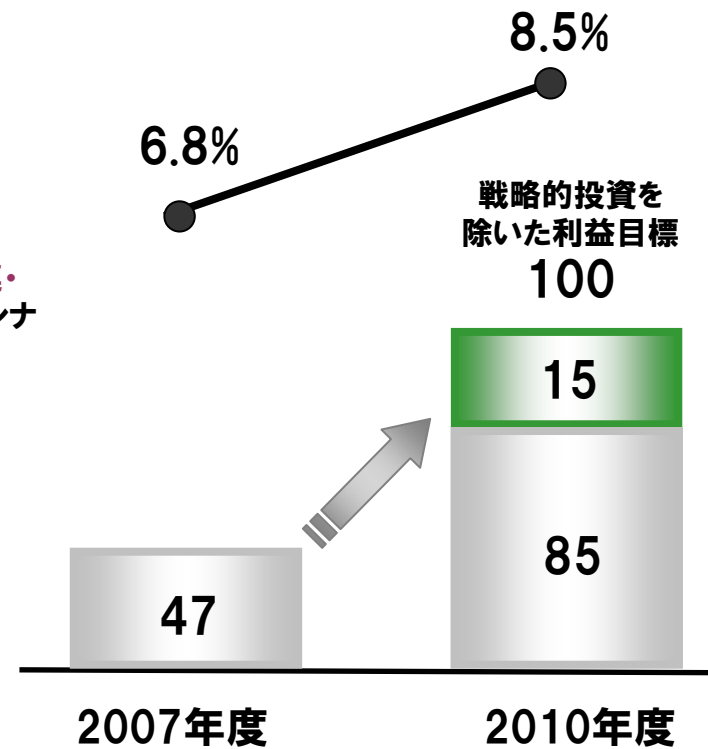
コイルを中心とする受動製品の成長機会を最も享受できるグローバルカンパニーとして売上高1000億円へ

(単位:億円)

## 売上高



## 営業利益



**Triple Exの利益目標達成に向けて戦略的な研究開発及びその加速を促すシナジーの追求、M&Aの実行に積極的に取り組む**

# End of the Report

## ご注意

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。要約された記述、引用、データ及びその他の情報を含む当資料の内容は、情報提供を目的としたものであり、スミダコーポレーション株式会社についての投資勧誘、あるいは売買の推奨を目的とするものではありません。当資料に記載されていることは、事前の予告なしに変更もしくは存続しなくなることがあることをご承知下さい。当資料は、現時点で入手可能な情報及びリソースをかんがみた現時点の予測及び所信に基づく、将来予想に関する記述及び将来の成果の見込みを含んでいます。リスクと不確実性は、知られている場合及び知られていない場合の両方を含み、経済状況、金利の変動、競合のシナリオ及び規制、税制、会計原則の変更などに関連するところを含み、スミダコーポレーション及びグループ会社の実績、パフォーマンス、達成状況及び財務パフォーマンスについて、当資料で明示的に又は黙示的にあらわされたことと著しく異なるようなことを生じさせることがあります。当資料に関するすべてのことについて、限りなく、提供する情報について正確を期すようにしております。しかしながら、その正確性と完全性に関して、完全な保証または誓約は全く与えられておりません。スミダコーポレーションあるいはそのグループ会社は、いかなる誤り、不正確、もしくはそのことに付随して発生したいかなる損失、損害にも責任を負いません。また、当資料の日付以降、当資料に含まれる情報を公にアップデートする義務も負いません。